

平成26年度

学校評価総括表

徳島県立川島高等学校

平成26年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表(1)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評 価		学校関係者の意見	次年度への課題
<p>(1) 中高一貫教育を活かした系統的な指導体制の確立</p>	<p>① 学校運営面での中高連携の促進に努め、異年齢集団における社会性の育成を進める。</p> <p>② 6年間の計画的・継続的な教育の研究を進め、中高の一貫性を促進する。</p>	評価指標	評価指標の達成度	総合評価		<p>○中高一貫教育の充実のためには、今後とも中高一貫教育推進委員会の果たす役割は大である。教員の意識が12.5ポイント減の背景を分析する必要があると考える。</p> <p>○県立川島高校の実状から、いろいろな課題を持たれている中で積極的に取り組まれていることが評価されます。</p> <p>○中学生体験入学やスペシャルアプローチは成果を上げており、一層の継続をしてほしい。中高一貫教育推進委員会などで出された課題の改善に十分に取り組んでほしい。</p>	<p>○中高一貫教育校として9年が過ぎ、概ね良好な中高一貫教育ができていると考えている。しかし、現状に満足するのではなく、これまでの教育活動に関する検証結果を十分に検討し、学習指導・進路指導・特別活動等の各領域で更なる充実をめざして課題改善に取り組むことが必要である。</p> <p>○授業の改善に向け、研究授業、中高合同の授業研究会、教科会の機会を増やしたり、実施方法の工夫が必要である。</p>
		<p>① ・中高一貫教育推進委員会定期的に開催する。 ・「中高一貫教育を活かした教育活動が行われている。」と思う教員の割合は、80%以上をめざす。 ・「併設型中高での学校生活は意義がある」の6年次生の割合70%以上をめざす。</p> <p>② ・平成27年度の教育課程を中高連携の下に年2回以上検討する。 ・中高相互の授業見学を実施し中高合同の教科会を年2回以上実施する。</p>	<p>① ・中高一貫教育推進委員会は年間6回実施した。 ・中高一貫教育を活かした教育活動が行われていると思う教員は77.5%（前年比12.5ポイント減）であった。しかし、保護者は76.8%（前年比1.1ポイント増）であった。 ・学校生活への6年次生の満足度は79.4%で評価指標を超えている。</p> <p>② ・平成27年度教育課程やクラス編成・講座編成について中高合同の教科会及び中高一貫教育推進委員会で検討した。 ・初任者研修、授業力向上研修、5年次研修、10年次研修等で中高相互の授業見学をしたが、合同協議の実施が十分ではなかった。 ・高校において各教科会を3回実施し、必要に応じて中高合同の教科会を実施した。</p>	〈評定〉			
				〈所見〉			
		<p>① ・中高一貫教育推進委員会において、6年次対象に実施した本校における6年間の学校生活についてのアンケート結果の課題・改善点について検討する。また、7月の中高一貫教育説明会、10月実施の県立川島中学校2年生対象説明会の内容を検討する。</p> <p>② ・平成27年度の教育課程を教育課程委員会及び中高一貫教育推進委員会を通して検討し編成する。 ・中高相互の授業見学、研究授業に対する合同協議や中高合同の教科会において、授業方法等について検証し、授業の工夫改善を図る。 ・今年度実施の授業展開や学力確認テストによる4年次生のクラス編成の検証をする。また、クラス数変動した場合の応用クラスのあり方についても検討する。</p>	<p>① ・平成26年度1月に6年次生を対象とした中高一貫教育アンケート結果を参考に、中高一貫教育推進委員会で今後の中高の学習指導や交流等の在り方について協議した。また、本年度も昨年に引き続き県立川島中学校募集説明会における保護者アンケートや県立川島中学校2年次生対象高校説明会における保護者アンケートを実施し、その結果を参考に中高一貫教育推進委員会で説明内容等について検討した。</p> <p>② ・平成27年度教育課程については、4月に教科会及び教育課程検討委員会、5月に中高一貫教育推進委員会を開催して検討し、職員会議での審議を経て決定した。 ・中高相互の授業見学及び合同協議を6月に実施し、教育内容や教育方法における中高の連携を踏まえた確認や検討を行った。さらに9月及び2月に、授業評価アンケートの結果を受けて、中高合同の教科会を実施し、授業内容や進度についての検討や共通理解を図った。 ・授業展開の検証については、2月実施の中高合同の教科会にて、各教科の立場で検討し、来年度に向けての意見を報告した。 ・来年度の新4年生はクラス数が1減となることが決定し、応用クラスのあり方を中高一貫教育推進委員会で検討・決定した。</p>	<p>昨年年度末には、中高一貫で中学校に入学してきた第3期生を送り出した。また本年度第4期生の卒業前に行った中高一貫教育アンケートにより、数学の先取り学習・学校生活・学習内容・進路指導・学校行事などについての意見収集ができ、一定の満足度と評価を得ていた。</p> <p>県立川島中学3年次生全員が参加している中学生体験入学や、中学生を対象とした高校教員が行う中高を接続するための授業であるスペシャルアプローチを通して、中高一貫教育の一層の充実を図ることができた。そのためか、ほぼ全員の中学3年生が川島高校への進学を早くから決めていた。</p> <p>平成27年度の教育課程については委員会等で十分な検討を加えることができ、進学や就職に向け、全体的な向上を図ることのできる教育課程が編成できた。</p>			

平成26年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表(2)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	次年度への課題
<p>(2) 確かな学力の充実と指導力の向上</p>	<p>① 個別面談の充実や、朝の学習、家庭学習など自主学習時間の確保に努める。</p> <p>② 学力向上を図る研修の充実や、授業の創意工夫に努める。</p>	<p>評価指標</p> <p>① ・「三者面談や個別面談は進路選択などに役立っている。」と思う生徒の割合は、75%以上をめざす。 ・「朝の学習により、学習の習慣が身についた。」と思う生徒の割合は、50%以上をめざす。 ・家庭学習時間を、前年度から10分以上増加させる。 ・漢字検定、英語検定準2級以上の合格者数は、それぞれ25人以上をめざす。 ・読書の推進に努め、年間読書冊数は、一人7冊以上、貸出冊数は、前年度から10%増をめざす。 ・総合的な学習の時間の在り方や運営方法について、年3回以上検討し、その改善・充実を図る。</p> <p>② ・生徒の授業に対する満足度は、75%以上をめざす。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① ・三者面談や個人面談に対する生徒の満足度は78.6%（前年比2.1ポイント減）であった。 ・朝の学習に対する生徒の満足度は44.6%（前年比0.2ポイント増）であった。 ・平日の家庭学習時間は4年次生は1時間20分、5年次生は1時間25分、6年次生は1時間55分（前年比年次平均7分減、4年次生は3分減、5年次生は4分増、6年次生は8分減）であった。 ・漢字検定の準2級以上の合格者は28人（前年比20名減）、英語検定の準2級以上の合格者は19人（前年比18名減）であった。 ・図書貸出冊数（2月10日まで）は2,756冊（前年比3%増）、1人あたり5.7冊（前年比5.5%増）であった。</p> <p>② ・授業に対する生徒の満足度は82.4%（前年比4ポイント増）であった。 ・習熟度別学習や少人数学習に対する生徒の満足度は71.0%（前年比1ポイント減）であった。</p>	<p>学校関係者の意見</p> <p>○三者面談に関する保護者の満足度が81.1%という状況は、大いに評価したい。準備等を含め、その対応の良さを裏付けているものと言える。</p> <p>○家庭学習・自主学習の習慣づけから取り組まねばならないところに先生方の苦悩を感じます。</p> <p>○評価指標7項目のうち5項目がOKとなっている。家庭学習の意欲向上を望む。「学力向上実行プラン」や学習支援体制の改善を望む。とにかく基礎学力の向上を望む。</p>	<p>次年度への課題</p> <p>○学力向上や実践的な学力の育成には、主体的な学習者の養成が急務となる。そのためには家庭学習や自学自習の習慣づけが必要である。今以上に面談を増やし具体的な課題を与える必要がある。まずは机に向かったり本を読む習慣を身につけることから始めることが大事である。</p> <p>○「朝の学習の時間」は、4、5年次生は英検、漢検という具体的な目標に向かって学習を進める時間として、また、一日の学習を落ち着いてスタートさせるという目的で行われている。その効果を肯定する教員が55.0%（前年比7.5ポイント減）に減った。2年連続の減少である。それでも3年連続で50%を上回った。取り組みへの意識を年次団で共有できれば効果が上がるのではなかろうか。</p> <p>○「学力向上実行プラン」を国・数・英に加え理・歴・公及び各年次ごとに作成したが、実行プランと名称にあるように、年次や教科会での緻密な検証を進める必要があることと実践力が今後の課題である。</p>
		<p>活動計画</p> <p>① ・生徒との常時面談を心がける。 ・朝の学習の時間を毎日10分間設定し、本校独自の「朝の学習ノート」で自学自習を行わせる。4、5年生は漢字検定及び英語検定合格を目標とした学習を行う。6年生は各自の進路目標達成のための学習を行う。 ・朝の学習ノートに前日の生活記録を記入し、生徒に自己反省を促すことで、規則正しい生活習慣と学習習慣を身につけさせる。 ・宿題・週末課題の提出を義務づける。 ・家庭学習時間調査を毎月行う。 ・読書ノートを活用させたり、校内読書会やクラス読書会を開催し、読書の啓発を行う。</p> <p>② ・学力向上検討委員会と連携し、国・数・英・理・歴・公における学力・学習状況についての目標・方策を設定し、学習支援体制の改善に努める。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① ・個人面談は4月と6月、及び10月の科目登録時を含め3回以上実施できた。また、保護者面談は5月のPTA総会、7月の三者面談、10月の年次PTAなどで実施できた。 ・朝の学習は全校集会など特別な場合を除き毎日実施できた。4、5年次生は、月・水曜日は国語、火・木曜日は英語を自学自習し、金曜日には国・英の小テストを隔週に実施した。6年次生は生徒の進路希望に沿った内容をホームルーム単位で実施した。 ・朝の学習ノートは、毎日の生活記録、学習内容を担任がチェックした。 ・宿題・週末課題は、提出させて教科担任がチェックした。 ・家庭学習時間調査は、毎月実施し集計結果を職員会議で報告した。 ・読書については、季節ごとにテーマを設定し、紹介本の情報を掲示したり、図書委員のおすすめ本の紹介を校内読書会で実施するなど啓発に努めた。</p> <p>② ・「学力向上実行プラン」を、国・数・英・理・歴・公及び各年次ごとに作成したが、教科内・年次内での周知・共通理解が不十分であった。</p>		

平成26年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表(3)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見	次年度への課題
<p>(3) 生徒の能力・適性に 応じた進路の実現</p>	<p>① 進路指導プログラムの改善・充実を図り、進路達成意欲を高める。</p> <p>② 三者面談・年次PTAなどにより保護者との連携強化に努める。</p>	<p>評価指標</p> <p>① ・補習、実力テスト、模試等に積極的に取り組む生徒の割合は、75%以上をめざし、保護者の満足度は、80%以上をめざす。 ・進路意識を高める行事や講座に対する満足度は、生徒・保護者ともに75%以上をめざす。</p> <p>② ・個別面談に対する保護者の満足度は、85%以上をめざす。 ・進路指導に対する保護者の満足度は、75%以上をめざす。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① ・補習、実力テスト、模試等に対して積極的に取り組んでいる生徒は65.2%（前年比1.6ポイント増）、保護者の満足度は86.3%（前年比1.0ポイント減）であった。 ・進路意識を高める行事や講座に対する満足度については、生徒は71.3%（前年比3.2ポイント減）、保護者は71.9%（前年比1.2ポイント減）であった。</p> <p>② ・個別面談に対する保護者の満足度は82.1%（前年比2.4ポイント減）であった。 ・進路指導に対する保護者の満足度は、76.2%（前年比2.0ポイント増）であった。</p>	<p>学校関係者の意見</p> <p>○ 評価の数値は首肯出来るが、生徒と保護者の満足度の差が大であることが気になる。</p> <p>○ 活動計画、その実施状況の取組が評価されます。外部のあまり高校のことを知らない者から見て、いろいろと実践されていると感じます。</p> <p>○ 指標6項目のうち5項目できている。補習などに積極的に取り組む生徒が2年連続して増加したのは成果である。</p> <p>○ PTAの会合に多くの保護者が参加しやすい工夫を考えてほしい。PTA大学視察も毎年実施したい。</p>	<p>次年度への課題</p> <p>○ 進路指導や個別面談に対して保護者の満足度はほぼ目標数値を達成できた。一方、生徒の補習等への取り組みや進路意識を高めるための行事等の満足度は評価指標の目標に達していない。評価指標の目標値の検討も必要である。</p> <p>○ PTA総会や年次PTAの参加率を高め教育活動や進路指導等に対する保護者の理解促進の機会を確保するため、夕刻を利用した年次PTAを準備することも検討したい。</p> <p>○ 進路達成に関して、評価指標に成果主義的なものも取り入れてはどうかという意見があり検討を要する。ただし、最終進路状況の把握が3月末になることで評価は前年度のものになること、希望進路を高く持たせると満足度が高いことがよい評価にはならないことなどから現状では評価指標に盛り込むのは難しいのではないかと。</p> <p>○ PTA大学視察に関しては、久しぶりに実施できたが、より多くの人数の参加者で実施できるよう継続していきたい。</p>
		<p>活動計画</p> <p>① ・進路達成のために補習、実力テスト、模試を計画的に実施するだけでなく、「朝学」「総合的な学習の時間」「土曜日補習」「サテライン授業」など様々な学習支援を行い、学力や小論文力養成を図る。 ・4年生に対し「職業人講演会」、5年生に対し「アカデミックレクチャー」、6年生に対し「進路ガイダンス」を実施する。 ・小論文講演会、進路講演会、進学座談会を各1回以上実施する。 ・先進校視察や授業力養成講座に5名以上の教員を派遣し指導力向上を図る。</p> <p>② ・夏季休業中、冬季休業中、大学入試センター試験後などに、三者面談を実施する。 ・年次PTAを年2回（5・10月）実施し、保護者面談や保護者対象の進路講演会を実施する。 ・PTA大学視察を年1回実施する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① ・補習、実力テスト、模試を計画通り実施した。 ・「サタデーサポート（土曜日補習）」、「代ゼミサテライン（DVD視聴）」、「サマーチャレンジ（学習合宿）」の学習支援策を定着させた。 ・4年次生の「キャリアレクチャー」、5年次生の「アカデミックレクチャー」、6年次生の「進路ガイダンス」を予定通り実施した。 ・小論文模試を各年次ともに1回ずつ実施した。入試小論文指導は個別指導で行った。 ・小論文講演会を各年次ともに1回ずつ実施した。進路講演会は各年次1～3回実施した。進学座談会も実施できた。</p> <p>② ・夏季休業中は生徒全員を対象に、また三者面談は冬季休業中及び大学入試出願前などに随時実施し、保護者との連携強化に努めた。 ・PTA総会や年次PTAにおいてクラス懇談及び保護者面談を実施した。10月の年次PTAでは保護者対象の進路講演会も実施した。 ・PTA大学視察として、8月に関西学院大学視察を実施した。</p>		
		<p>評価指標</p>	<p>評価指標の達成度</p>		
		<p>活動計画</p>	<p>活動計画の実施状況</p>		

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価 価		学校関係者の意見	次年度への課題
<p>(4) 基本的生活習慣の確立を図る生徒指導の徹底</p>	<p>① 生徒一人一人の自覚を促し、基本的生活習慣を身に付けさせる。</p> <p>② あらゆる教育活動を通して、きめ細やかな生徒指導を行い、いじめ防止の等の取り組みに努める。</p>	<p>評価指標</p> <p>① 全校集会、指導週間を月1回実施し、生徒指導の充実に努める。</p> <p>・学校評価アンケートにおける、生徒の達成度は、80%以上をめざす。</p> <p>② 学校評価アンケートにおける、生徒指導に関する生徒・教職員の達成度は、80%以上をめざす。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 年間で全校集会を6回、指導週間を11回実施した。</p> <p>・基本的生活習慣、社会のルールやマナーの大切さを自覚させる指導に関する肯定的意見は、生徒は92.4%、保護者は82.2%、教職員は90.0%であった。始業チャイムを守る等前向きな態度で授業に取り組んでいることに関する肯定的意見は、生徒は88.5%、教職員は80.0%であった。子どもは校則やきまりを守り前向きな態度で学校生活を送っていることに関する保護者の肯定的意見は91.2%であった。服装・頭髪等高校生らしい身だしなみを心がけて生活しているか(適切な指導が行われているか)に関する肯定的意見は、生徒は91.6%、保護者は90.5%、教職員は90.0%であった。</p> <p>② 学校には悩み等を相談できる先生や友達がいるかに関する生徒の肯定意見は82.6%であった。学校は、保護者からの連絡や相談に迅速かつ丁寧に対応することに関する保護者の肯定的意見は78.7%であった。教員の共通理解のもと適切できめ細やかな生徒指導に関する肯定的意見は、保護者は76.6%、教職員は80.0%であった。適切な保健・安全教育が行われ健康で安全な生活を心がけているかに関する肯定的意見は、生徒は92.6%、保護者は86.3%、教職員は95.0%であった。</p>	<p>総合評価</p> <p>〈評定〉</p> <p style="text-align: center;">B</p> <p>-----</p> <p>〈所見〉</p> <p>9割近くの生徒は基本的な生活習慣、社会のルールの大切さを自覚し生活することができている。しかし、一部の生徒において自分勝手な行動が見られる場面もあった。</p> <p>服装頭髪等の継続的指導を要する生徒は一部に限られ、9割強の生徒は身だしなみを心がけて生活できており全体的に安定している。しかし、女子のスカート丈や、男子の柄物靴下などの小さな違反に対しては、継続しての指導が必要である。</p>	<p>○肯定的な意見 92.4% は実にすばらしい。生徒指導上の個別的な事柄があるとしても、評価はAとしてもおかしくはない。</p> <p>○評価はAと思います。</p> <p>○すべての項目が80%を超えている。落ち着いて学業に取り組める環境づくり、事故や問題行動の未然防止、悩み事アンケートなど適切な指導教育が評価できる。今後とも保護者との連携を密に、迅速で丁寧な相談体制を望む。</p>	<p>○授業を受ける態度指導、身だしなみ指導、遅刻指導等について、正副担任や各年次団、生徒課の役割を明確にし、効果的な指導を継続して行う必要がある。</p> <p>○教育相談体制の充実を図り、保護者との連携のもとで関係する複数の教員が関わり状況に応じて粘り強く個別指導を継続し、支援する必要がある。そのためには、生徒課と教育相談課の連携等各課の協力体制づくりが重要である。</p> <p>○健康と安全の意識の上に立って健康管理を自ら実践できるように日常的な指導が必要である。生徒個人の生活習慣を把握し適切な指導を継続していきたい。</p> <p>○交通安全に対する意識を高め、自転車運転時のマナーの向上、安全運転の徹底を図る必要がある。</p>
		<p>活動計画</p> <p>① ホームルーム活動、年次集会、全校集会、指導週間等の機会を活用し生徒の自覚を促し、指導の徹底を図る。また、登下校指導、校内外巡視等を適宜実施し、生徒の注意を喚起することによって事故や問題行動の未然防止を図る。</p> <p>② 授業態度、身だしなみや携帯電話に関する指導等について共通理解し、指導の徹底を図る。また、教職員間の情報交換を密にし、個々の生徒の指導について連携して取り組む。さらに、ホームルーム担任を中心に保護者との連絡を密にし、相談等に対応する。</p> <p>・長期休業中の校外巡視等、PTAや地域、青少年育成補導センター、警察署等の協力のもとで実施し、連携を深める。</p> <p>・交通安全教室、薬物乱用防止教室(4年生対象)、健康教育講演会(4年生対象)を年1回以上実施する。</p> <p>・カウンセリングの体制を充実させる。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① 全校集会、年次集会、ホームルーム活動等を通して、生徒指導上の注意事項について生徒自身に考えさせ、事故や問題行動の未然防止を図った。また、毎月20日の「学校安全の日」にあわせて4日間の指導週間を設定し、登下校指導、服装・頭髪指導、遅刻指導、校内外巡視を実施した。生徒会役員による朝の挨拶運動、交通委員による下校時の交通マナーアップの呼びかけ等、生徒による活動も積極的に実施した。</p> <p>② 「携帯電話校内使用禁止」の校則に基づいて、落ち着いて学業に取り組める環境づくりに努めた。また、放課後の使用や校外での使用についても、自覚を促し、ルールやマナーを守りよく考えて行動させることによって、携帯電話に関連するトラブルや犯罪の未然防止を図った。また、授業時の生徒の態度や言動についての情報交換を密にし、継続的な指導を行った。</p> <p>・校外巡視等で関係機関との連携を深めることができた。</p> <p>◇吉野川警察署交通係長を講師に招いて交通講話を実施した(7/17)。◇様々な非行と犯罪(加害・被害)の防止を目的として吉野川警察署から刑事生活安全課スクールサポーターを講師に招いて非行防止教室を実施した(12/19)。◇阿波吉野川警察署交通課に依頼し、阿波高校と合同の原付車安全運転講習会を実施した(7/16)。◇吉野川警察署刑事生活安全課スクールサポーターを講師に招き、4年生に対して、薬物乱用防止教室を実施した(5/7)。</p> <p>・がん予防を目的とした健康教育講演会を4年生に対して実施した。(6/26)</p> <p>・教育相談日を設定して、教育相談体制の充実を図るとともに悩みごとアンケートを実施し早期対応を図った。</p>	<p>8割以上の生徒が友達や先生等校内に悩み事を相談できる相手があり、保護者の8割近くからも迅速で丁寧な相談体制を評価されている。</p> <p>適切な保健安全教育が行われ高い評価を受けている。生徒は健康安全について高い意識を持つ一方で、中には自己の健康管理が不十分な生徒が見受けられる。</p>		

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題		
<p>(5)人権尊重の精神の涵養を図る人権教育の推進</p>	<p>①人権教育指導計画の改善と、“あわ”人権学習ハンドブックの活用を図る。</p> <p>②人権尊重の意識を高めるため、創意溢れる具体的な取組の展開に努める。</p>	評価指標	評価指標の達成度	総合評価		<p>○「ある程度そう思う」(53.1%)の割合を「そう思う」の方向に高めたい。</p> <p>○高く評価されま</p> <p>○指標3項目とも80%以上、総合評価Aはすばらしい。身近な人権課題から意識高揚、自主性を大切にしてほしい。同和問題を中心に校内で共有することも継続してほしい。</p> <p>○人権学習ホームルーム活動に人権委員のより積極的な参加を促す。</p> <p>○「人権の日」の放送では、引き続き「個別的な視点」や身近な人権について考え、様々なテーマとなるよう内容を工夫する。今年度から開始した中学校への放送も継続させ、道徳的内容にも適宜触れながら、中高連携を意識した内容を工夫する。また、人権委員が主体的に活動できるよう事前の指導を考慮する。</p>	<p>○人権学習ホームルーム活動の主題設定や内容について各年次の状況を考慮し、より一層精選する。</p> <p>○人権学習ホームルーム活動の展開や資料等について、生徒の状況に合わせたものを用いるなど、常に状況を把握し精選する。また、自己評価票の活用をさらに徹底し、反省点を生かせるよう努力する。</p> <p>○人権学習ホームルーム活動に人権委員のより積極的な参加を促す。</p> <p>○「人権の日」の放送では、引き続き「個別的な視点」や身近な人権について考え、様々なテーマとなるよう内容を工夫する。今年度から開始した中学校への放送も継続させ、道徳的内容にも適宜触れながら、中高連携を意識した内容を工夫する。また、人権委員が主体的に活動できるよう事前の指導を考慮する。</p>		
		<p>①・「人権学習ホームルーム活動の実施回数と内容は適切であり、人権教育は充実している。」と思う生徒の割合は、80%以上をめざす。</p> <p>②・「人権の大切さを学び、それを日常生活に活かそうとしている。」と思う生徒の割合は、80%以上をめざす。</p> <p>・「人権を大切にしている教育活動が行われている。」と思う保護者の割合は、80%以上をめざす。</p>	<p>①・人権学習ホームルーム活動の実施回数と内容は適切であり、人権教育は充実していると思う生徒の割合は、「そう思う」(27.2%)と「ある程度そう思う」(53.1%)を合わせると80.3%となり評価指標を上回ることができた。</p> <p>②・人権の大切さを学び、それを日常生活に活かそうとしていると思う生徒の割合は、「そう思う」(31.6%)と「ある程度そう思う」(48.6%)を合わせると80.2%となり評価指標を上回ることができた。</p> <p>・人権を大切にしている教育活動が行われていると思う保護者の割合は、「そう思う」(22.7%)と「ある程度そう思う」(60.0%)と合わせると82.7%となり評価指標を上回ることができた。</p>	〈評定〉					
				<p>総合評価</p> <p style="text-align: center;">A</p>				<p>〈所見〉</p> <p>人権学習ホームルーム活動の中で“あわ”人権学習ハンドブックを活用し、多様なテーマを取り入れるよう配慮し、年次の状況に応じた内容の展開となった。</p>	
		活動計画	活動計画の実施状況	<p>①・人権学習ホームルーム活動においては、各年次の状況、生活課題に即した学習主題を設定し、できるだけ多くの「個別的な視点」や「普遍的な視点」を盛り込んだ授業を展開し、生徒参加型の授業展開も取り入れる。</p> <p>・設定した主題について、“あわ”人権学習ハンドブックの活用を努める。</p> <p>・授業展開・資料に関する年次検討会、事後研修に努めるとともに「自己評価票」の効果的な利用を図る。</p> <p>②・人権新聞の編集に人権委員を積極的に活動させ、内容の充実を図り、年3回発行する。</p> <p>・鴨島支援学校との交流への積極的な参加を促し、人権意識の高揚を図る。</p> <p>・講演会等の日程や内容については、中学校や保護者等に配慮して検討し充実させる。また、講演会や「人権の日」の放送及びホームルーム活動などでは、人権委員がリーダーシップを発揮し、効果的に実施できるよう適切に指導し、人権委員会の活性化を図る。</p> <p>・人権尊重の精神の日常化が図られるよう、日頃の声かけ、呼びかけに努める。</p>	<p>①・人権教育推進委員会で企画・立案した年間指導計画に沿った人権学習ホームルーム活動が展開できた。</p> <p>・主題設定には“あわ”人権学習ハンドブックを積極的に活用し、高校3年間を見据えできるだけ「個別的な視点」と「普遍的な視点」をバランスよく取り入れた。また、昨年度と同様に「個別的な視点」の中でも特に「同和問題」に重点を置き、各年次において必ず取り上げるように計画し実施した。</p> <p>・人権学習ホームルーム活動の生徒の「自己評価票」により、生徒の取り組みや感想が把握でき効果的に利用した。</p> <p>②・「人権新聞」を各学期毎3回発行し、生徒の感想文等内容の充実を図り、家庭への良き情報発信となった。</p> <p>・鴨島支援学校運動会への参加や本校学校祭に参加してもらうなど交流を深めることで、人権意識の高揚を図った。</p> <p>・坂本達氏の「自転車世界一周の夢、実現～生かされてきたことに感謝を込めて～」と題した講演会では、自転車での世界一周のご体験から、命の尊さや夢や目標に向かって努力することの素晴らしさ、周りの人への感謝の気持ちを持つことの大切さを伝えていただき、参加者それぞれの心にいるんなかたちで響く講演となった。保護者の参加もあり、充実した学校行事となった。また、毎月10日の「人権の日」では年間を通じて各ホームルームの人権委員による「人権の日」の放送を行い、人権委員会活動の活性化に繋がった。人権研究部の校内外の取り組みに加え、「道徳」に関する話題も取り上げ、生徒自身の人権意識や道徳に対する意識の向上に努めた。ホームルーム活動では少しずつではあるが、司会進行として人権委員がリーダーシップを発揮する機会が増えてきた。</p>			<p>鴨島支援学校との交流は、6月の鴨島支援学校の運動会、9月の本校学校祭、11月の鴨島支援学校の学校祭で交流を行った。参加した生徒は和気あいあいと競技の補助に務めていた。また、10月の「ふれあい交流作品展」には本校生徒の作品も展示し交流の輪を広げた。</p> <p>坂本達氏の講演会は生徒・保護者から好評であった。</p> <p>今年度で7年目である「人権の日」の放送は、朝の学習時間を利用し、各ホームルームの人権委員が意欲的に取り組み充実していた。様々な「個別的な視点」や「道徳的内容」を取りあげ、「知る」ことの大切さや身近な人権について考えを深めることができた。</p>	

平成26年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表(6)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題	
(6) 心身ともに健康な生徒を育てる特別活動の充実	① 学校行事，生徒会活動等を通じて，生徒の自主性の育成に努める。 ② ホームルーム活動や部活動のより一層の活性化を図る。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価		○学校行事に満足感が得られるように一層努めていただきたい。 ○高校では生徒が話し合えるようなHR活動の時間も確保できているのでしょうか。公立中学校では諸連絡だけでいっぱいなのが実状でした。すごいと思います。 ○生徒主体の生徒会活動を望みます。部活動入部率86%はすばらしいが90%をめざしてほしい。生徒の自主性の育成を願うものである。盛り上がる学校祭にしてほしい。	○生徒会役員会や各種委員会を開催し，ホームルームや部活動における満足度・不満足度などを検証し，改善する必要がある。 ○生徒会活動がより積極的に行えるよう，委員会の開催や行事内容の検討を図る。また，生徒の意見を取りあげるようなシステムを構築する必要がある。 ○生徒主体の活動が行えるための事前準備時間を確保する。 ○部活動において，途中で退部した者に対して，できれば他の部への再入部を促す。 ○特別活動を通じて普段から将来についてしっかりと考えていけるようサポートする。	
		① 通学路の一斉清掃を月1回実施する。 ・川島中高祭など，学校行事への生徒の満足度を80%以上にする。 ・「生徒にさせてみて，それを支援する」場の創造と意識の共有化を図る。 ② 部活動の入部率85%以上をめざす。 ・部活動委員会を年3回開催する。	① 通学路の一斉清掃は，学期に1回程度しか実施できなかった。 ・川島中高祭など学校行事に対する生徒の満足度が，「そう思う」と「ある程度そう思う」をあわせて74.3%（保護者は84.9%）と目標の80%に届かなかった。学校行事の満足度を上げるためにも生徒会を中心に話し合いを重ねていきたい。 ・体育祭では生徒会を中心に，新しい取組ができるなど積極的な活動が見られた。 ② 部活動の入部率は86%（男子85%，女子86%）であった。 ・部活動委員会を年3回開催し，部活動の活性化等について話し合うことができた。	総合評価				
				<評定> B	<所見>			
					昨年に引き続き学校行事において中学校との事前の話し合いにより，連携を一層密にした。 部活動の入部率は昨年に比べ上昇しており，来年度も85%以上を目指したい。			
活動計画	活動計画の実施状況							
① 生徒会や部活動，ホームルームが連携し，月1回通学路の清掃を行うなど積極的に美化活動に取り組む。 ・川島中高祭への積極的参加を促し，意識の高揚を図る。また，生徒がリーダーシップを発揮し，一体となって運営できるよう適切な指導を行う。 ② 部活動への積極的な参加を促す。また，部員同士で十分に話し合いをさせ，年間活動方針を明確にさせる。 ・部活動委員会を通して，部活動間で連携を深めるとともに，問題点を話し合う。	① 生徒会では役員を中心に，予餞会での思い出ビデオ制作，募金活動，あいさつ運動など活発に行う事ができた。 ・部活動に多くの生徒が参加し，学校の活性化につなげることができた。 ・通学路清掃については不十分であった。 ・学校行事において，生徒会を中心に生徒が主体となった計画，活動ができはじめている。 ② 日頃の在校生の頑張りが，新入生部員の積極的な入部につながった。高校1年生の入部率は，88%（兼部者を含む）と高いものとなった。 ・部活動委員会を通して，各部活動間で連携を深めると共に，問題点を話し合った。							

平成26年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表(7)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題
(7) 環境教育及び国際理解教育の推進	<p>①「新学校版環境ISO」に取り組むなど環境保全活動に努める。</p> <p>②国際性を高めるため積極的に国際交流を図る。</p>	評価指標	評価指標の達成度	総合評価		<p>○分別などの取組はすばらしい。</p> <p>○評価はAと思います。</p> <p>○古紙回収や保護者・地域と連携した「レッツ・クリーン」の継続を望む。</p> <p>○今後とも海外語学研修制度の利用発展を期待する。</p>	<p>○日直によるEco Diary（節電・節水・ゴミの分別の記録表）への記入を徹底させることで、環境意識の高揚を図る。</p> <p>○ゴミの分別とともに古紙回収をさらに徹底するよう指導する。</p> <p>○「レッツ・クリーン」は来年度も保護者にも呼びかけ、地域とも連携して環境美化運動に取り組む。</p> <p>○国際理解教育をさらに推進するため、保護者の理解と協力を得て、国際理解教育に関する各種行事や催しへの参加を促す。</p>
		<p>①・『新学校版環境ISO』に取り組む、清掃活動や環境美化に積極的に取り組んでいる。」という生徒の割合は、70%以上をめざす。</p> <p>・「ゴミの分別・節電・節水等に努めている。」という生徒の割合は、70%以上をめざす。</p> <p>・電気・水道の使用量については、2%減をめざす。</p> <p>②・県立川島中学校主催の海外語学研修に高校生を2名以上参加させる。</p>	<p>①・清掃活動や環境美化に積極的に取り組んでいると思う生徒の割合は74.1%(前年比2.1ポイント減)であり、評価指標を上回った。</p> <p>・ゴミの分別・節電・節水等に努めていると思う生徒の割合は79.2%(前年比0.5ポイント減)であり、評価指標を達成することができた。</p> <p>②・8月にオーストラリアのパースでの海外語学研修に高校生5名(中学生16名)が参加し、文化祭で研修の様子をパネルで展示発表した。また、10月に2泊3日でパースより生徒17名・引率2名を受け入れ、ホームステイや授業体験を通して交流を深めた。</p> <p>・10月には有給休暇4年3ヶ月をもらって自転車で世界一周を果たした坂本達氏の講演を聴いて世界に目を向けることができた。</p>	<p>〈評定〉</p> <p style="text-align: center;">B</p> <p>-----</p> <p>〈所見〉</p> <p>『新学校版環境ISO』の認定を受けて3年目になるが、美化委員会だけでなく全校的な取り組みとなるようゴミの分別や節電・節水の徹底を呼びかけるほかに、段ボールコンポストによる生ゴミ処理など家庭での取組を促すなど積極的な取組が望まれる。</p>			
		活動計画	活動計画の実施状況	<p>海外語学研修への参加生徒は、文化祭でパネル展示し研修の様子や成果を発表した。また、研修参加者のほとんどがパースからの生徒のホームステイを受け入れ、授業体験で通訳などを手伝って、本校生徒との交流を深めることに貢献した。</p>			
		<p>①・「新学校版環境ISO」告知板を掲示し、活動内容の広報に努める。</p> <p>・日直に「節電・節水、ゴミ処理、緩急美化への取組」をEco Diaryに記録させ、意識の高揚を図る。</p> <p>・各クラスにゴミ箱を3種類設置し、ゴミの分別の徹底を図る。また、「古紙回収箱」を設置し、ゴミの減量化を呼びかける。</p> <p>・委員会活動の一環として「レッツ・クリーン」環境美化活動への参加や『新学校版環境ISO』の告知板作成等に取り組む。</p> <p>・舎外一斉清掃を実施する。</p> <p>・教科・科目・総合学習等、学習活動を通じて環境教育を実施する。</p> <p>②・海外語学研修についての説明を入学者説明会や学校説明会だけでなく、日頃の指導においても積極的に実施する。</p>	<p>①・『新学校版環境ISO』告知版を設置し行動方針等諸活動の内容を紹介した。</p> <p>・「桜樹」保全のための看板を作りかえた。</p> <p>・電気や水道の使用量はグラフ掲示し、美化委員から節電・節水の協力を呼びかけた。</p> <p>・ゴミの分別や古紙回収を行い、ゴミの減量に全員で取り組んだ。</p> <p>・美化委員と生徒会に加えて、今年はPTAの参加も得て通学路や駅、学校周辺の環境美化運動「レッツクリーン」を実施した。</p> <p>・総合的な学習の時間等「環境といのち」をテーマに各教科で幅広く学習した。</p> <p>②・学校説明会において海外語学研修の良さをアピールし、さらに日頃の授業においても語学研修の有意義さを説明した。</p> <p>本年度3月の入学者説明会においても説明する予定である。</p>				

平成26年度 徳島県立川島高等学校 学校評価についての総括評価表(8)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題
(8) 開かれた学校づくりと安全教育の推進	① 地域貢献活動などの活性化や、ホームページ等を活用した広報活動の充実を図り、家庭や地域との連携を深めるとともに、外部評価結果を生かす取り組みの推進に努める。 ② 地域と連携した安全・防災教育の積極的な推進に努める。	評価指標	評価指標の達成度	活動計画	活動計画の実施状況	○学校HPの利用は、主に保護者を含めた学外の方への情報発信、情報提供であると考え。生徒と保護者の満足度の違いは仕方ないものか考える。 ○評価はAと思います。 ○防災委員会・クラブの実践的な活動を大いに期待する。学校防災計画を実践的なものへ改善し、命の大切さを常に意識すること。ホームページは新鮮な情報発信を望む。	○ホームページについては年度当初に担当者会議を開き、古い情報については速やかに更新する等、定期的な情報の発信ができる組織作りを行う。 ○11月の「とくしま教育週間」の公開授業については、さらに多くの参加者を得るための広報活動を充実させる必要がある。 ○2月に県南部を震源とする地震が発生した。訓練のおかげで、生徒の初期対応はしっかりとできていた。しかし、その後の安全確認など職員の初動が非常に遅く、学校防災計画の課題が明確となった。訓練のための防災計画であってはならない。大幅な見直し求められる。
		① ・心豊かで美しい街づくりをめざすボランティア活動を実施する。 ・「ホームページが充実しており、学校の活動状況を理解するのに役立つ」と思う割合は、生徒・保護者とも70%以上をめざす。 ② ・本校における防災上の課題を把握し、より実践的な防災教育を推進する。 ・あらゆる災害を想定し、多様な実践的な防災訓練を年間に複数回実施する。	① ・地域の美化活動やイベントの運営協力を行うことにより、地域に貢献できる生徒の育成を推進できた。 ・ホームページが充実しており、学校の活動状況を理解するのに役立つと思う割合は、生徒は54.1%(前年比1.9ポイント減)、保護者は72.4%(前年比0.7ポイント減)であった。 ② ・今年度、防災訓練は合計4回実施した。停電時を想定した避難訓練など、より実践的な訓練を実施した。避難指示がうまく伝達されないなど、多くの問題が露呈した。形骸化した訓練にならないよう、次年度以降もさらなる工夫が求められる。評価に否定的な回答も少なからずある以上、さらなる改革が必要で、何よりも全校をあげた取組が求められる。				
		① ・吉野川市「レッツ・クリーン」に参加し環境美化を推進する。 ・イベントに際しては積極的にボランティアとして参加させる。 ・ホームページへの掲載情報の拡充に重点を置き、最新情報の掲載や項目の追加などの更新を適時効果的に行う。 ・携帯メールによる緊急連絡網を活用する。 ② ・地域や行政と連携した防災訓練を実施する。 ・教科指導を通じた防災教育を実践し、生徒の防災意識を高める。 ・防災ボランティア推進事業を活かし、学校や地域に貢献できる諸括道や校外での研修にも積極的に参加する。	① ・5月に吉野川市環境企画課主催「レッツクリーン」環境美化に参加し、通学路等学校周辺の「ポイ捨てゴミ」を一掃した。 ・ホームページについては、中学・高校入試の案内、PTA活動や同窓会活動の案内・報告等にはよく活用できていたが、生徒の校外での活動を知ってもらう記事が少なかった。 ・携帯メールによる緊急連絡網の活用は、今年度3回活用した。 ② ・防災委員会を今年度より起ち上げ、防災クラブとして全校的な活動が始まった。各訓練においては率先避難行動をはじめ、自らの命を守り、他者の命を守る、防災リーダーとしての役割を担うことができた。しかし、時間的な制約や計画不足により地域や行政と連携した活動は実践できなかった。他方で、教科指導等において図上防災訓練など、より実践的な活動を実施することができた。また、備蓄計画が推進され地域の防災拠点としての整備が進展したことも評価できる。				
			総合評価 〈評定〉 B ----- 〈所見〉 ホームページについては、生徒・保護者とも評価が減少している。これは、生徒・保護者が知りたい記事が少ないことが原因だと考えられる。改善していかねばならない。 各訓練においては概ね真剣に取り組むことができ、迅速な避難行動がとれているが、いまひとつ緊張感が足りない印象である。訓練内容や設定に工夫を要する。また、昨年度と同様であるが、冬季の防災訓練は時期を含めて改善が必要である。				

